

たしざんやひきざんのかみしばいをつくろう！

【内容】1年 算数「ひきざん（2）」

【使用アプリ】ロイロノート

【事例紹介】 たし算やひき算の紙芝居づくりを通して、問題をつくることへの興味や関心を高めたり、友達の作った問題を聞いたり見たりして、立式することを目的に行いました。まず、八つ切り画用紙を半分に切った紙に、絵と問題文を書きました。次に、絵を写真にとって、ロイロノートで提出させました。大型提示装置で、提出した絵を映し、問題文をみんなの前で読み、クイズ大会をしました。大きな画用紙に書いて、画用紙を見せて問題を出し合うこともできますが、絵を描くことに苦手意識がある児童や、大きく描くことが苦手な児童もいるので、小さい紙に手軽に書き、大画面で共有する方法をとりました。児童の読む問題文に合わせてスライドすることで、児童も次はどんな絵が来るだろうとわくわくした様子で考えることができました。普段、立式をすることが苦手な児童も自分で絵を描いて問題を作ることができたり、大画面に映る絵と友達の問題を聞いて計算したりすることができました。




かめが10ひき ねています。

2ひきおきました。
ねているかめは、なんひきですか。

【終わりに】今回は、紙に描いたものを写真に撮って共有化を図りましたが、ロイロノートのカードに直接描く方法もあると思います。また、共有するときに、本学級が13人なので、全体で問題を出し合いましたが、人数の多いクラスでは、共有ノートを作ってグループで行ったり、絵に問題文も入れて、児童が提出したものを教師が送って、個人で考えて解いたりするなど、様々な方法で共有できるのではないかと感じました。低学年で操作に慣れてない中でも、少しずつ活用の幅を広げていきたいです。

☆教育委員会指導主事より☆

大きな紙に大きく書くことを重視しない活動であれば、小さな紙に書き、写真を撮って共有することは有効ですね。chromebook で写真を撮った後に、カメラアプリの「写真を撮る」ボタンのすぐ下にある写真を押し、続く編集画面で上部の  (証明フィルタ) を選択すると、「明るさ」「コントラスト」「彩度」が調整でき、手軽に見やすく加工できます。おススメは、少し「暗く」して、コントラストを「高く」するです。これで文字がはっきりと見えるはずですよ。